

◆認知症について正しい知識を持ちましょう part 17

先月号に引き続き『認知症の人と接するときの心構え』について紹介します。

《こころのバリアフリーを》

足の不自由な人は、杖や車いすなど道具を使って自分の力で動こうとします。街中でも段差解消などのバリアフリー化が進んでおり、また手助けが必要な場合には援助が頼めます。

しかし、認知症の人は自分の障害を補う『杖』の使い方すら覚えることができません。『杖』のつもりでメモを書いてもうまく思い出せず、何のことだったかわからなくなります。認知症の人への援助には障害を理解し、さりげなく援助できる『人間杖』が必要です。交通機関や店など、まちのあらゆるところに温かく見守り、適切な援助をしてくれる人がいれば外出もでき、自分でやれることもずいぶん増えるでしょう。こころのバリアフリー社会をつくるのが認知症のサポーターの役割です。

《かかわる人の心がまえ》

認知症はすでに身近な病気となり、私たちは誰でも認知症になる可能性があります。認知症という病気のことを理解したうえで、自分だったらどう生き抜くかということを考えなければ、認知症の人を支援することは難しいのです。

健康な人の心情がさまざまであるのと同じように認知症の人の心情もさまざまです。「あの人は『認知症』らしい」というような無関心な考えではなく、「私の友人が『認知症』という病気にかかってしまった」ということを想像し行動することが大切です。私たちが友人としてすべきことは、認知症の障害を補いながら、今までどおりに友人としての付き合いを続けることです。

もし、スーパーのレジ前で認知症のためにまごまごしてうまく支払いができない人に遭遇したら、一緒に小銭を数えてあげるなど、ちょっとした手助けをしましょう。さりげなく、自然に、それが認知症の人にとって、心情的にも一番の支援となります。



◆大崎町の介護保険事業の報告

介護保険事業実績についての報告（利用者の1割または2割負担を除いた大崎町の支払い分）

第1号被保険者（65歳以上の人）		4,952人	平成28年5月末日 現在
要介護（支援）認定者		1,017人	
給 付 実 績	在宅介護サービス費	38,631,307円	平成28年4月の 給付実績
	施設介護サービス費	56,878,254円	
	その他（介護予防サービス費も含む）	35,985,256円	
	介護サービス費 合計	131,494,817円	